

主要地方道大東・東出雲線熊野工区交B(交通安全)工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書

大田山神社跡

平成17(2005)年3月

島根県八雲村教育委員会

主要地方道大東・東出雲線熊野工区交B(交通安全)工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書

おお た やま じん じゃ あと
大田山神社跡



平成17(2005)年3月

島根県八雲村教育委員会

序

八雲村教育委員会では、島根県松江土木建築事務所の委託を受けて、主要地方道大東・東出雲線熊野工区交B(交通安全)工事に伴う大田山神社跡の発掘調査を平成15年度に実施しました。本報告書はこの遺跡の調査成果をとりまとめたものです。

今回の調査では、意宇川右岸の丘陵斜面から加工段1段と社殿の基壇、よこ穴が発見されました。

この報告書が地域の歴史を解明するうえでの糸口になることを期待すると共に、郷土の歴史と文化に対する理解と関心を高める一助としてお役に立てば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び本書の刊行にあたりまして、ご協力いただきました島根県松江土木建築事務所、島根県教育庁文化財課、並びに関係者の皆様、また、直接発掘調査に携わっていただきました作業員の皆様に衷心より感謝の意を表します。

平成17年3月

八雲村教育委員会

教育長 泉 和 夫

例 言

1. 本書は、島根県松江土木建築事務所の委託を受けて、八雲村教育委員会が平成 15 (2003) 年度に実施した主要地方道大東・東出雲線熊野工区交B (交通安全) 工事に伴う大田山神社跡の調査成果を取りまとめたものである。
2. 本書で扱う遺跡の所在地及び調査面積は次のとおりである。
大田山神社跡 島根県八束郡八雲村大字熊野 321-1 番地外
調査面積 58.5 m²
3. 調査組織は以下のとおりである。
[平成15年度] 現地調査
調査主体 八雲村教育委員会 教育長 泉和夫
事務局 三好淳 (教育次長)、藤田節子 (嘱託)
調査指導者 小松周 (八雲村文化財保護協会)
調査担当者 川上昭一 (社会教育係主任主事)
調査補助員 田中和美 (臨時職員)、深津光子 (臨時職員)
作業員 宇田昭治、小松原俊子、田角由香、月森靖夫、濱田幸介、真野凱睦、三島陽子
持田智江、山下征雄
遺物整理 高尾万里子、田角由香、持田智江
[平成16年度] 報告書作成
調査主体 八雲村教育委員会 教育長 泉和夫
事務局 三好淳 (教育次長)、藤田節子 (嘱託)
調査担当者 川上昭一 (社会教育係主任主事)
調査補助員 田中和美 (臨時職員)、深津光子 (臨時職員)
4. 発掘調査及び報告書の作成にあたっては以下の方々から有益なご助言、ご協力、資料の提供を頂いた。記して感謝の意を表する。(順不同、敬称略)
熊野高裕 (熊野大社)、米田昭一 (同)、安達義人 (元土地所有者)、岩田正 (郷土文化会館館長)
須山久男 (地元住民)、安達美代子 (同)、稲田宗 (同)、藤原環 (同)、安達照夫 (同)、安達英夫 (同)
白鹿敏夫 (同)、岩田幸美 (同)、神庭朗 (同)、有限会社三島工業所
5. 本報告書の編集と執筆は、上記の調査指導者や協力者の指導と助言を得ながら、調査員が協議して行った。
6. 本書で使用した方位は磁北を示す。
7. 土壌および遺物の色調には農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』1996年版を参考にした。

8. 本書に掲載した第1～3、10図は以下の図面による。

第1図：八雲村位置図（1：400,000）

鳥根県松江土木建築事務所の管内図を浄書して使用。

第2図：大田山神社跡の位置と熊野地区の神社跡位置図（1：25,000）

八雲村管内図を使用。

第3図：開発予定地と大田山神社跡位置図（1：10,000）

八雲村産業課の八雲村農村総合整備モデル事業平面図を浄書して使用。

第10図：大田山神社社殿図（略測図）

国幣中社熊野神社並撰末社明細図書及付録外ニ境外撰末社地種取調書（熊野大社）の掲載図面を浄書して使用。

9. 「第2図：大田山神社跡の位置と熊野地区の神社跡位置図（1：25,000）」の神社跡の位置については、熊野大社・熊野大社氏子会「合祀前各神社所在地」『くまぐましいクニ ー写真は語りかけるー』平成6（1994）年10月を参考にした。

10. 図版1の大田山神社絵図は、鳥根県古代文化センターが撮影した熊野大社所蔵の『熊野大社本社並撰末社々殿絵図』の写真プリントを使用した。

11. 本遺跡の出土遺物及び調査記録は八雲村教育委員会で保管している。

本文目次

第1章	位置と環境	1
第2章	調査に至る経緯	7
第3章	調査の経過	8
第4章	調査の概要	9
	1. 加工段	11
	2. 社殿の基壇	11
	3. よこ穴	11
第5章	まとめ	14

挿 図 目 次

第1章

- 第1図 八雲村位置図(1:400,000) 1
※行政区画の境界は平成17年3月1日現在のもの。
- 第2図 大田山神社跡の位置と熊野地区の神社跡位置図(1:25,000) 4

第2章

- 第3図 開発予定地と大田山神社跡位置図(1:10,000) 7

第4章

- 第4図 調査区配置図(1:2,000) 9
- 第5図 大田山神社跡発掘調査前地形測量図(S=1/100) 10
- 第6図 大田山神社跡遺構位置図(S=1/100) 10
- 第7図 加工段実測図(S=1/60) 12
- 第8図 社殿の基壇実測図(S=1/40) 12
- 第9図 よこ穴実測図(S=1/40) 13

第5章

- 第10図 大田山神社社殿図 16
- 第11図 村内よこ穴略測図(S=1/60) 18

表 目 次

第1章

- 第1表 熊野地区の神社跡一覧表 5~6

第5章

- 第2表 神社の変遷一覧表 15
- 第3表 八雲村内よこ穴一覧表 17

卷末写真図版目次

- 図版 1 大田山神社絵図『熊野大社本社並撰末社々殿絵図』より
島根県古代文化センター撮影
- 図版 2 発掘調査前の大田山神社跡近景（北西より）
- 図版 3 上 発掘調査前の大田山神社跡遠景（南西より）
下 発掘調査後全景（南東より）
- 図版 4 上 社殿の基壇及び加工段検出状況（南東より）
下 加工段全景（北より）
- 図版 5 上 加工段土層堆積状況（北より）
下 社殿の基壇全景（南東より）
- 図版 6 上 基壇南側の石組み（南より）
下 基壇西側の拜礼台検出状況（北西より）
- 図版 7 上 よこ穴全景（西南西より）
下左 よこ穴土層堆積状況（西より）
下右 調査指導風景
- 図版 8 上 大田山神社跡より大田集落を望む（北東より）
中 発掘作業風景
下 発掘調査参加者
- 図版 9 上 第11図 1、元田地区の芋穴近景（南東より）
中 第11図 5、大田地区の防空壕近景（北東より）
下 古墳時代の横穴墓を利用した芋穴近景

第1章 位置と環境

八雲村は昭和26年(1951年)に岩坂村、熊野村、大庭村大字平原の3村が合併して誕生している。位置的には島根県の東部、県庁所在地である松江市の南郊にあたり、北側と西側を松江市(北側：旧大庭村・西側：旧忌部村)、南西部は雲南市大東町(旧海潮村)、南東部は安来市広瀬町(旧山佐村・旧広瀬町)、北東部は八束郡東出雲町(旧意東村・旧出雲郷村)に囲まれている。松江市街地への利便性に恵まれ、そのベッドタウンとして近年急速に宅地化が進み、県下市町村の中で高い人口増加率を示す村である。

村の規模は東西8km・南北10km・面積約55.41km²で、総面積の80%以上が山林で占められている。この山間に谷が形成されているが、これらはすべて意宇川本支流の浸食堆積作用によるものである。大きな谷に意宇川、桑並川、東岩坂川、川原川が形成した谷があり、その谷筋の沖積地には余すところなく水田が開かれている。平野はあまり発達をみせず、川が合流する村の北側(意宇川の中流域)部分に盆地状に展開している。

遺跡はこの谷と平野を取り囲む部分に集中し、下流に向かうほど密集している。また、これまで行った調査では古墳時代のものが顕著である。今回調査を行った大田山神社跡は意宇川上流域の丘陵斜面に位置しており、近世の神社跡として知られている。以下、今年度の調査報告にあたり、大田山神社跡が所在する熊野地区(旧熊野村)の神社について『八雲村誌^{註1}』を参考に概観する。



第1図 八雲村位置図 (1 : 400,000)

【古代の神社】

八雲村は733年に編纂された『出雲国風土記』によると、出雲国庁や意宇郡家が置かれていた「意宇郡大草郷」に含まれており、八雲村域だけで1つの郷を形成し得ないほど人口は希薄だったようである。それでも当地域には中央の神祇官の神名帳に登録されている官社が10社（熊野大社・久米社・布吾彌社・宇流布社・前社・田中社・詔門社・楯井社・速玉社・石坂社）、国庁だけに登録されている国社が7社（毛弥社・那富乃夜社・国原社・田村社・川原社・笠柄社・志多備社）存在していた。この内、大田山神社の所在する旧熊野村には出雲神社信仰の中心に位置する熊野大社をはじめ、久米社・布吾彌社・前社・田中社・詔門社・楯井社・速玉社の官社8社が鎮座していた。このことは、人口が少ないながら村域の各地に集落が形成され、それぞれが祭祀を行っていたことを物語っている。

【中世の神社】

中世に勧請されたと考えられる特色ある宮として「八幡宮」があげられる。熊野大社資料の『宝暦十四年熊野大社并二村中諸末社荒神指出帳』(1764年)の中で八幡三座が祭神となっている宮として、天野八幡宮(須谷地区)・神庭若宮(須谷地区)・北代若八幡社(市場地区)・森脇若宮(森脇地区)・茅野三久保若宮(萱野地区)の5つの宮があげられている。三座とはいわゆる応神天皇(誉田別命)を主座とした三神であり、天野八幡宮では応神天皇・神功皇后・仲哀天皇が、茅野三久保若宮では誉田別命・息長帯比賣命・建内宿禰尊の三神が祀られている。これらはいずれも尼子十旗の中に数えられる熊野城の置かれた上熊野に集中しており、下熊野や旧大庭村大字平原に八幡宮はない。上熊野以外では旧岩坂村の星上山山頂に鎮座する那富乃夜神社(別所地区)に配祭神として誉田別命・比賣大神が祀られているのみである。八幡宮は中世有力武士による八幡信仰に伴い、軍神として他地域より勧請されたと考えられることから、これらの集団が上熊野を拠点としていたことが推察される。熊野城を居城としていた熊野氏の八幡宮は要害山中腹にあったと伝えられており、現在は山麓に下ろされて神庭家の自宅敷地内で神庭若宮として祀り継がれている^{註3}。また、尼子氏を亡ぼした毛利氏の代官として熊野城に入った天野隆重が祀ったと伝えられている天野八幡宮は、熊野大社の伊邪那美神社へ合祀されており、宮跡には石垣と石段だけが残っている。この天野八幡宮は宝暦14年『指出帳』によると、社は「四尺七寸四方」と記されており、規模からすると下之宮火出始神社の「御本殿大サ二間四方」、上之宮三社権現の「御本殿之大サ 中ノ社八尺四方 左右社五尺四方」に次ぐ大きな宮であった。

【近世の神社】

宝暦14年『指出帳』には、上之宮・下之宮とその境内末社の他、28カ所の村中末社、72カ所の荒神、5カ所の幸神、2カ所の水神が記載されている^{註4}。この中で水害にあたり大破したりして宮がなくなっている神社は次の11社である。

客大明神ノ社 川流(上宮内上之宮境内末社)	五合瀧神社 大破(上宮内地区若松谷)
音無瀧神社 大破(上宮内地区堂谷)	道祖神社 川缺(下宮内下之宮境内末社)
火知神社 川缺(下宮内下之宮境内末社)	諏訪大明神 社ナシ(下宮内下之宮境内末社)
楯井神社 川流(大田地区楯井)	田中神社 大破(大石地区)
大内谷鏡宮 社無(大石地区)	熊利刀神社 大破(大石地区)
速玉神社 川缺(鎮座地不明)	(能)

しかし、なお当地には上之宮三社権現・下之宮火出始神社とその境内末社以外に、大きなものでは4尺7寸四方の宮をもつ天野八幡宮から、小さなものでは1尺四方の大田御子神社・大内谷山神社・茅野三久保若宮・森脇若宮・若須山神社・市場恵美須宮まで実に21の社が存在していた。文化10年(1813年)の熊野村の人口が家数^{註5}313軒、人数1,519人だったことと比較してもかなりの数に上り、神社信仰の厚い土地柄を物語っている。

【明治以降の神社】

明治に入ると全国の神社の社格決定が行われ、「熊野神社」は明治4年に上之宮と下之宮共に国幣中社の指定を受けている。この後、政府による一村一社令の法令に従って明治41年に上之宮にあった伊邪那美神社を下之宮(現社地)へ移転し、同時に境内外摂末社を合祭している。^{註6}翌明治42年、下之宮神域の上方山麓を地ならしして伊邪那美神社新殿を建設し、同年10月に正遷座祭が執行された。『国幣大社熊野神社明細帳』^{註7}(1916年以降)や『八束郡誌』(1926年)の記載をみると、下之宮境内摂社の稲田神社に配祀または合祀された神社は、御前社・速玉社・火置社・日代社・建御名方社・金刀比羅社であり、伊邪那美神社に合祀または配祀された境内外摂社末社は以下の19社である。^{註8}

上之宮右の社「事解之男社」・上之宮左の社「速玉之男社」(宮内地区)

上之宮境内末社「八所社」・「五所社」・「久米社」(宮内地区)

雲場社(大石地区)

能利刀社(大石地区)

布吾彌社(大石地区)

田中社(大石地区)

楯井社(大田地区)

大田山神社(大田地区)

藤代社(森脇地区)

矢谷山神社(矢谷地区)

萱野山神社(萱野地区)

王子養蚕社(稲葉地区か)

素盞鳴社(宮内地区)

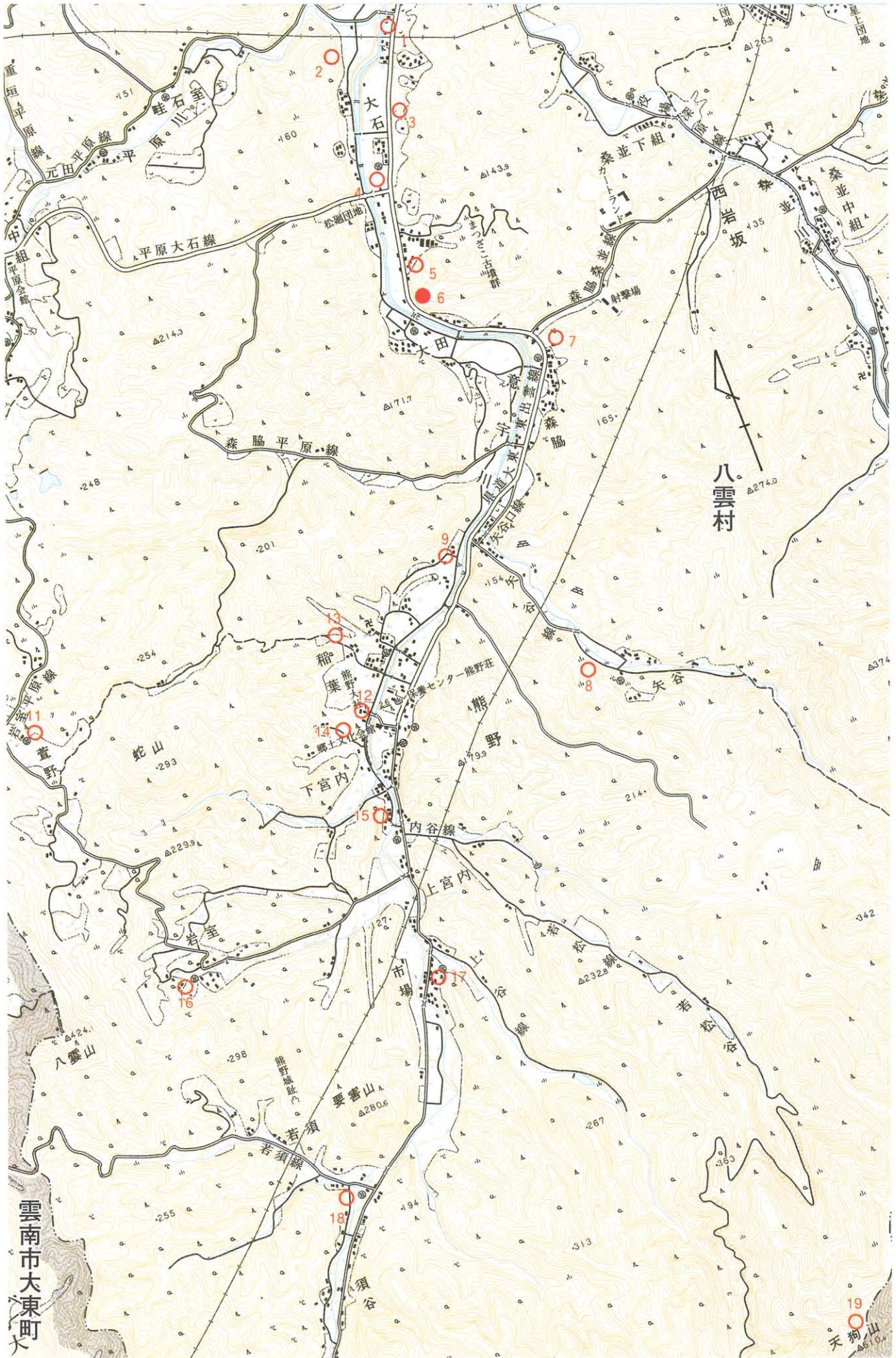
金田社(岩室地区)

恵美須社(市場地区)

天野八幡宮(須谷地区)

明治41年には、熊野各地区に祀られていた地荒神、道祖神、水神も熊野大社境内に合祀されている。なお、上記の社以外の宮は、現在も個人の宮として残っている神社も多い。しかし、この一村一社令が旧岩坂村と比較して旧熊野村では完全に近い状態で実施されたのは、他地区の宮が全て小社で、社格も無社格であり、国幣中社とは余りにも社格が違い過ぎたためと、宮司が官選宮司であったことによると思われる。

大正5年(1916年)、熊野神社は国幣中社から国幣大社へ昇格した。大正8年(1919年)には名実共に大社として相応しい宮造りをするために境内を南側と西側に大拡張し、本殿その他の移転が行われて現在の社地、社殿配置が出来上がった。



第2図 大天山神社跡の位置と熊野地区の神社跡位置図 (1 : 25,000)

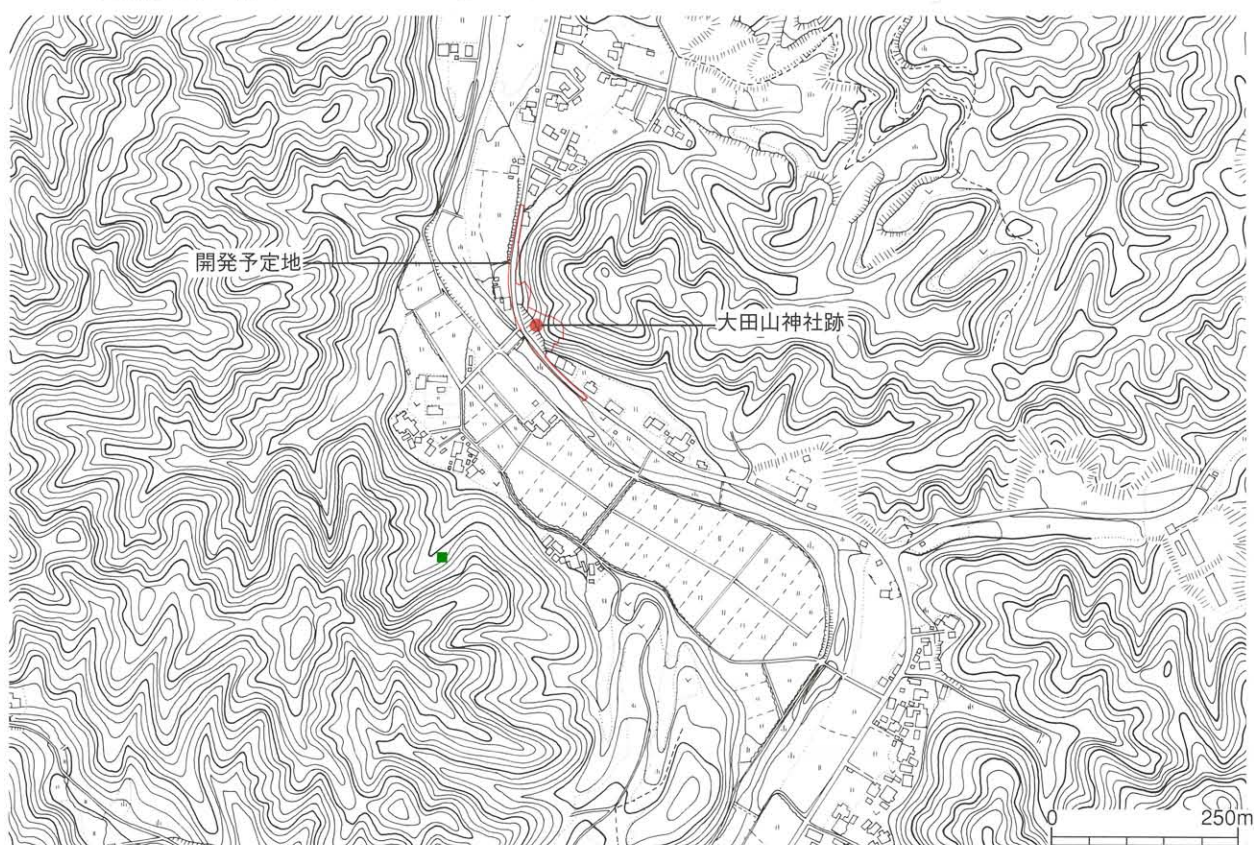
第1表 熊野地区の神社跡一覧表

番号	神社名(註9)	所在地(註10)		出雲国風土記 733年	延喜式 927年	雲陽誌 1717年	享保12年『指出帳』 1727年(註11)	宝暦14年『指出帳』 1764年	合祀先の神社(註12)				備考	
		熊野大社資料	八雲村誌						熊野社明細帳	熊野大社誌	八束郡誌	八雲村誌		
1	雲場社	大石	大石			雲羽明神社跡	大石雲羽神社	雲場大明神		伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	『八雲村誌』では、雲場社跡は古代における速玉社跡に比定。
2	能利刀社	大石	大石	詔門社	能利刀神社	日吉の劍山明神	氏宮(熊利刀神社、氏之宮とも云う)	熊利刀神社(氏宮とも云う)	大破	伊邪那美神社に配祀。	伊邪那美神社	伊邪那美神社に配祀。	伊邪那美神社	所在地は『雲陽誌』では日吉。『出雲国式社考』では稲葉か宮内。
3	布吾彌社	大石	大石	布吾彌社	布吾彌神社	丹生社跡	丹生神社。布吾彌(彌か)神社とも云う	布吾彌神社(誕生社とも云う)		伊邪那美神社に配祀。	伊邪那美神社	伊邪那美神社に配祀。	伊邪那美神社	『出雲国風土記参究』では、風土記の布吾彌社は玉湯町となっている。
4	田中社	大石	大石	田中社	田中神社			田中神社	大破	伊邪那美神社に配祀。	伊邪那美神社	伊邪那美神社に配祀。	伊邪那美神社	
5	楯井社	大田	大田	楯井社	楯井神社			楯井神社	川流	伊邪那美神社に配祀。	伊邪那美神社	伊邪那美神社に配祀。	伊邪那美神社	『熊野村地引図(註13)』には数ヶ所に楯井・タタエ・タタ井の小字名が記載。
6	大田山神社	大田	大田				大田山神社	大田山乃社		伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	所祭神麓山祇神
7	藤代社	森脇	森脇			藤代明神社	藤代神社	藤代神社		伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	
8	矢谷山神社	矢谷	矢谷				矢谷山神社	矢谷山神乃社		伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	
9	御前社	稲葉	稲葉	前社	前神社	熊野御崎社		熊野御崎神社(前神社とも云う)		稲田神社に配祀。	伊邪那美神社	稲田神社に配祀。	伊邪那美神社	『古社記(註14)』では、御前社、御崎社。
10	速玉社	稲葉か上宮内	大石	速玉社	速玉神社			速玉神社	無社	稲田神社に配祀。		稲田神社に配祀。		
11	萱野山神社	萱野	茅野				茅野山神社	茅野山神社		伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	
12	下之宮	下宮内	大石から下宮内へ			熊野社下の社・伊勢宮		下之宮火出始神社(伊勢宮とも云う)						熊野大社現社地。『八雲村誌』では中世から近世初頭にかけては大石に鎮座か。
12	火置社	下之宮境内				火置社	火置神社(則官社とも云う)	火置神社(則官社とも云う)		稲田神社に配祀。		稲田神社に配祀。		宝暦14『指出帳』では下之宮境内末社。
12	火知神社	下之宮境内					火知神社	火知神社	川缺					宝暦14『指出帳』では下之宮境内末社。
12	日代社	下之宮境内								稲田神社に合祀。		稲田神社に合祀。		『八雲村誌』では火知神社に比定。
12	稲田神社	下之宮境内						稲田神社						宝暦14『指出帳』では下之宮境内末社。
12	道祖神社	下之宮境内						道祖神社	川缺					宝暦14『指出帳』では下之宮境内末社。
12	建御名方社	下之宮境内					武御名方社(諏訪明神とも云う) 無社	諏訪大明神	社ナシ	稲田神社に合祀。		稲田神社に合祀。		宝暦14『指出帳』では下之宮境内末社。
12	門守神社	下之宮境内						門守神社						宝暦14『指出帳』では下之宮境内末社。
12	金刀比羅社	下之宮境内								稲田神社に合祀。		稲田神社に合祀。		『指出帳』に記載がない。永禄8年(1565年)の棟札あり。
13	王子養蚕社	稲葉	境内(宮内)			王子社跡	王子社(養蚕神社とも云う)	王子養蚕神社(熊野十王子権現とも云う)		伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	宝暦14『指出帳』では下之宮境内末社。
14	素盞鳴社	下宮内	宮内			素盞鳴社跡				伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	
15	上之宮	上宮内	宮内			熊野社上の社・熊野三社		上之宮三社権現						
15	伊邪那美神社	上宮内	宮内					中ノ社・伊弉冉尊、伊弉諾尊						宝暦14『指出帳』では上之宮境内末社。
15	速玉之男神	上宮内	宮内					左ノ社・速玉男神		伊邪那美神社に配祀。	伊邪那美神社	伊邪那美神社に配祀。	伊邪那美神社	宝暦14『指出帳』では上之宮境内末社。
15	事解之男神	上宮内	宮内					右ノ社・事解男神		伊邪那美神社に配祀。	伊邪那美神社	伊邪那美神社に配祀。	伊邪那美神社	宝暦14『指出帳』では上之宮境内末社。
15	五所社	上宮内	宮内					五所神社		伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	宝暦14『指出帳』では上之宮境内末社。
15	八所社	上宮内	宮内					八所神社		伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	宝暦14『指出帳』では上之宮境内末社。
15	久米社	(宮内)	(宮内)	久米社	久米神社			久米神社		伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	宝暦14『指出帳』では上之宮境内末社。古代の所在地は不明。
16	金田社	岩室	岩室				岩室金田大明神社	岩室金田大明神社		伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	
17	恵美須社	市場	市場					市場恵美須宮		伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	
18	天野八幡宮	須谷	須谷					天野八幡宮		伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	伊邪那美神社	
19	熊野大社元宮(磐座)	天狗山(風土記の熊野山)	天狗山(天宮山)	熊野大社・熊野大神の社	熊野坐神社名神大	熊野大神の社まします								

第2章 調査に至る経緯

主要地方道大東・東出雲線は、大原郡大東町の主要地方道松江・木次線を起点とし、八雲村内を通過して八束郡東出雲町の国道9号線に接続する総延長19.34kmの道路である。八雲村においては、新興住宅地として人口が増加する中、地域の活性化を支える基幹道路としてこの路線の重要性が増してきている。しかし、ほぼ中間地点にあたる同村熊野地内には、線形が悪い上に視距の確保できない曲線区間や背向曲線の連続する区間が存在する。特に、大田地区内は車道幅員が5.5mと非常に狭く、通学路となっているにもかかわらず歩道も整備されていない。それに加え近年、熊野大社の参拝者やゆうあい熊野館、ホットランドやくも等の入り込み客の増加も手伝い、交通量も増加傾向にある。このため、以前より通行者の安全面に問題があることが指摘されており、安全対策が急務の状況になっていた。これらの問題を解消するため、鳥根県松江土木建築事務所では交通安全事業により歩道整備並びに視距改良工事を実施することとなった。

この事業に先立ち、松江土木建築事務所より八雲村教育委員会宛に事業予定地内における埋蔵文化財有無についての照会があった。事業計画地内には大田山神社跡があり、平成15年7月8日に対象地の分布調査を実施したところ、社殿の基壇と考えられる石組みを確認した。大田山神社は近世に造営された神社と伝えられており、明治41年には熊野神社境内摂社の伊邪那美神社社殿へ合祀されている。本調査の要、不要について鳥根県教育庁文化財課と協議したところ、神社跡が中世に遡る可能性もあり、発掘調査が必要との回答を得た。この後、松江土木建築事務所と遺跡保護の協議がなされたが神社跡を計画からはずすことは不可能との結論に達し、八雲村教育委員会が主体となり発掘調査を行うこととなった。



第3図 開発予定地と大田山神社跡位置図（1：10,000）

第3章 調査の経過

本発掘調査は大田山神社の社域であった八雲村大字熊野 321-1 番地を調査対象区域とした。

平成15年7月24日に鳥根県松江土木建築事務所と協定を結び、同年7月28日に委託契約を締結した。この後、8月4日に文化財保護法第58条の2第1項に基づく通知を鳥根県教育委員会宛に提出している。

現地調査は8月6日より開始した。まず、平成14年度工区からの廃棄土が調査区を覆っていたため、廃棄土を重機により除去する作業から始めた。翌8月7日にグリッドの設定と熊野321-1番地の筆境復元を行っている。グリッドは工事用基準杭のNO.B($X = -67739.448 \cdot Y = +83301.121 \cdot L = 54.586$)にトランシットを建て、NO.A($X = -67748.715 \cdot Y = +83301.744 \cdot L = 55.018$)を睨み直線を設け、これと直交するように 2×2 mの方眼を組み、北西の交点をグリッド名とした。この後、8月11日に調査前の地形測量を実施し、土層観察用の畦を設定して同日午後より荒掘り作業に取りかかった。調査地は県道の法面に接した場所であり、事前に転落防止柵を設置している。また、掘削した土砂の廃棄時は安全帯を付けながらの作業であった。随時遺構の精査、写真撮影を行い、8月25日に全体写真の撮影と地形測量、9月2日に調査指導会を開催して現地での作業を終了した。

【調査日誌抄】

平成 15 (2003) 年

- 8月6日(水) 重機掘削の立会。平成14年度工区からの廃棄土の除去作業。
- 8月7日(木) 重機掘削の立会。グリッド設定。熊野321-1番地筆境の復元。
- 8月8日(金) 仮設トイレの設置。転落防止柵設置作業。
- 8月9日(土) 転落防止柵設置作業。
- 8月11日(月) 諸準備。仮設テントの設営。調査前の地形測量(1/100)と写真撮影。
午後より荒掘り作業開始。加工段、よこ穴を確認。
- 8月12日(火) 荒掘り作業。加工段の規模が判明する。一部調査区を拡張する。加工段にセクションを残し、掘削する。加工段に堆積した土砂は非常に軟らかく鋤簾で掘削可能。木の根の除去に時間を割かれる。
- 8月18日(月) 荒掘り作業。基壇の全体像が判明。写真撮影のため社殿の基壇清掃。
土層観察用の畦を残しよこ穴掘削。堆積した土砂は非常に軟らかい。
- 8月19日(火) 荒掘り作業。基壇の写真撮影。よこ穴縦断土層図面作成(1/20)。
- 8月20日(水) 基壇平面図作成(1/20)。よこ穴横断土層図面作成(1/20)。遺構検出作業。
- 8月21日(木) 基壇平面図作成(1/20)。よこ穴平面図作成(1/20)、よこ穴が穿たれた地山は測量用の五寸釘が打ち込めないほど堅い。
- 8月22日(金) よこ穴平面図作成(1/20)。加工段平面図作成(1/20)。
- 8月25日(月) 社殿基壇撤去作業。写真撮影のため調査区の掃除。全体写真の撮影。
地形測量(1/100)。発掘作業道具の撤収作業。
- 8月26日(火) 発掘作業道具の清掃、収納。
- 9月2日(火) 午前に調査指導会。

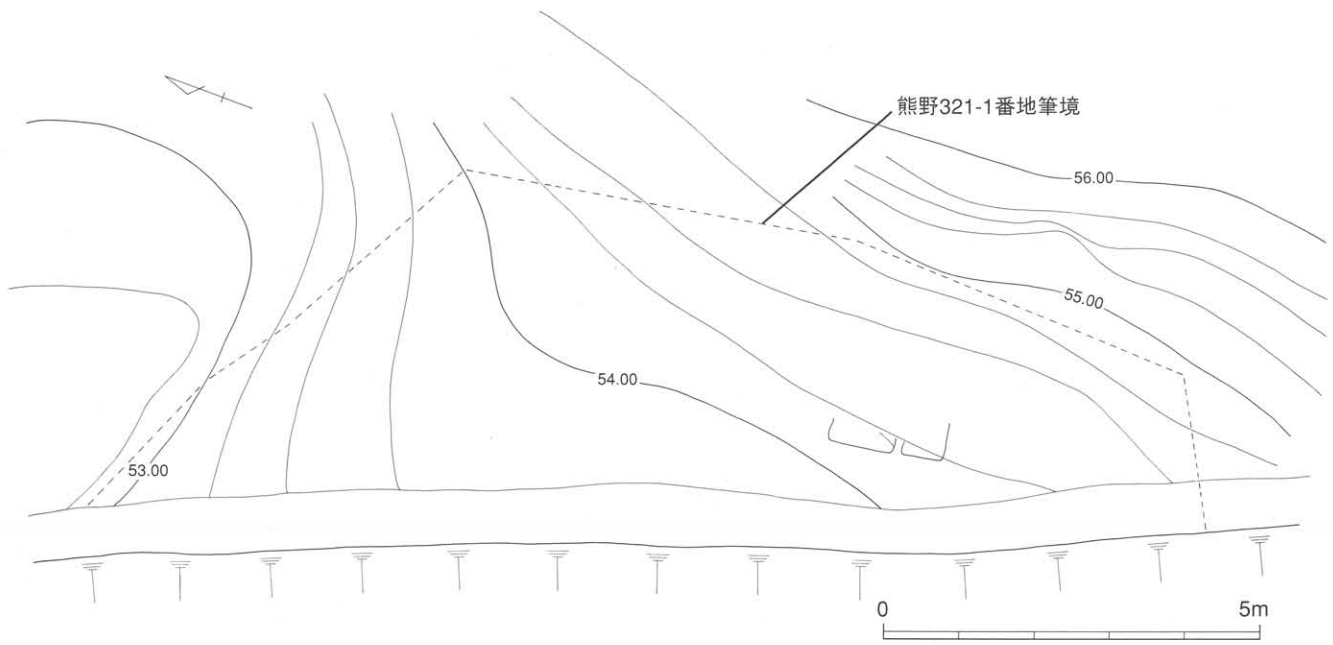
第4章 調査の概要

今回の調査地は八雲村大字熊野321-1番地であり、小字名を大田という。意宇川中流域右岸の丘陵中腹に位置しており、調査地での標高は52.00～55.75mを測る。当地は、熊野大社の域外末社である大田山神社が置かれていた場所であり、社殿跡には「太田山神社跡」と刻まれた^{註15}標柱が建てられていた。ここは非常に見晴らしがよい場所であり、社殿跡からは大田地区の集落が一望できる。また、熊野大社の元宮があったと伝えられている天狗山（『出雲国風土記』記載の熊野山）山頂を望むこともできる。創建当時の社域は定かではないが、宝暦14年（1764年）の『指出帳』によると「境内敷地5間四方」と記されており、これが明治36年には1畝21歩に拡張されている。明治41年に大田山神社は熊野神社境内の伊邪那美神社神殿へ合祀され、社地は所有者に還付されている。時代は下って昭和49年になると2筆に分筆されて、西側の321-2番地については主要地方道大東・東出雲線が整備されている。

今回の調査では、大田山神社に関する基壇1基と加工段1段を検出している。また、神社に関するものではないが、よこ穴1個を検出した。



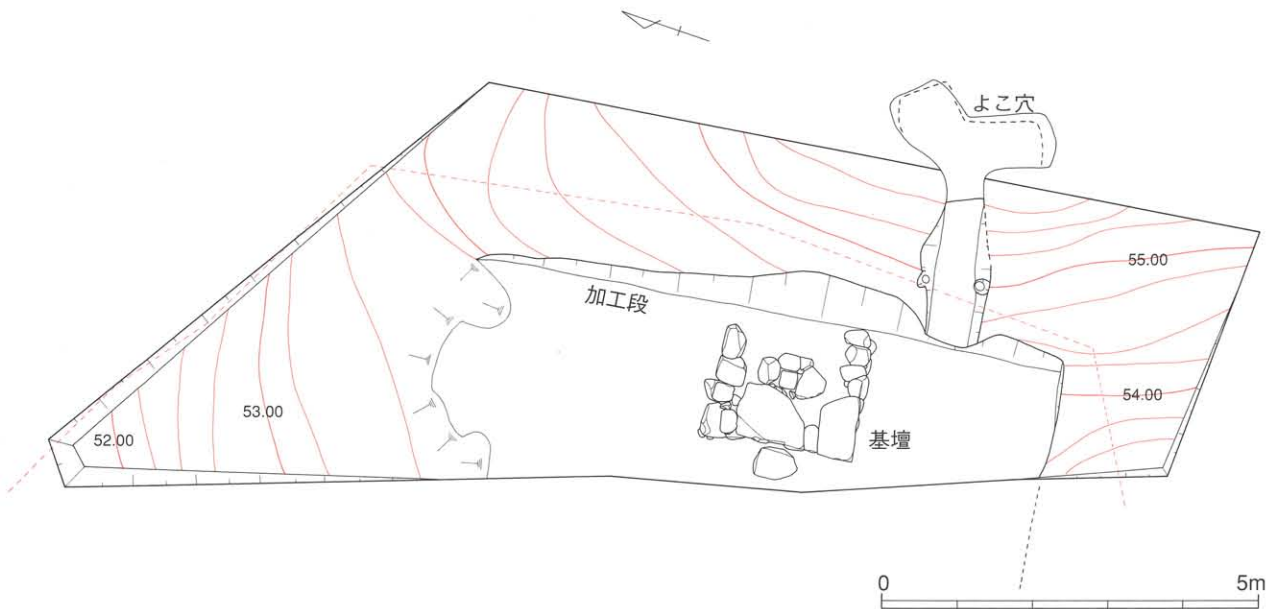
第4図 調査区配置図（1：2,000）



第5図 大田山神社跡発掘調査前地形測量図 (S = 1 / 100)



地形測量時の加工段 (北より)



第6図 大田山神社跡遺構位置図 (S = 1 / 100)

1. 加工段 (第7図)

調査区の標高 53.75 ~ 55.00 mを測る位置で検出された加工段である。ほぼ南北方向に伸びる東壁と東西方向に伸びる南壁を検出したが、斜面下方にあたる北側からは壁面を検出していない。また、西側部分については道路法面で消滅しており、詳細は不明である。残存する加工段の東壁と南壁のコーナーは直角に交わっており、その下には平坦面が作り出されていた。壁面は斜面上方にあたる東壁が良く残っており、現状での規模は長さ 7.82 m、高さ最大 111.5 cmを測る。南壁はやや残りが悪く、現状での規模は長さ 1.34 m、高さ最大 36.6 cmである。平坦面の標高はおよそ 53.75 mであり、斜面下側となる北西へ向け若干の傾斜がついている。東壁下からは社殿の基壇を検出しており、加工段はある時期の大田山神社社域を示すものと考えられる。

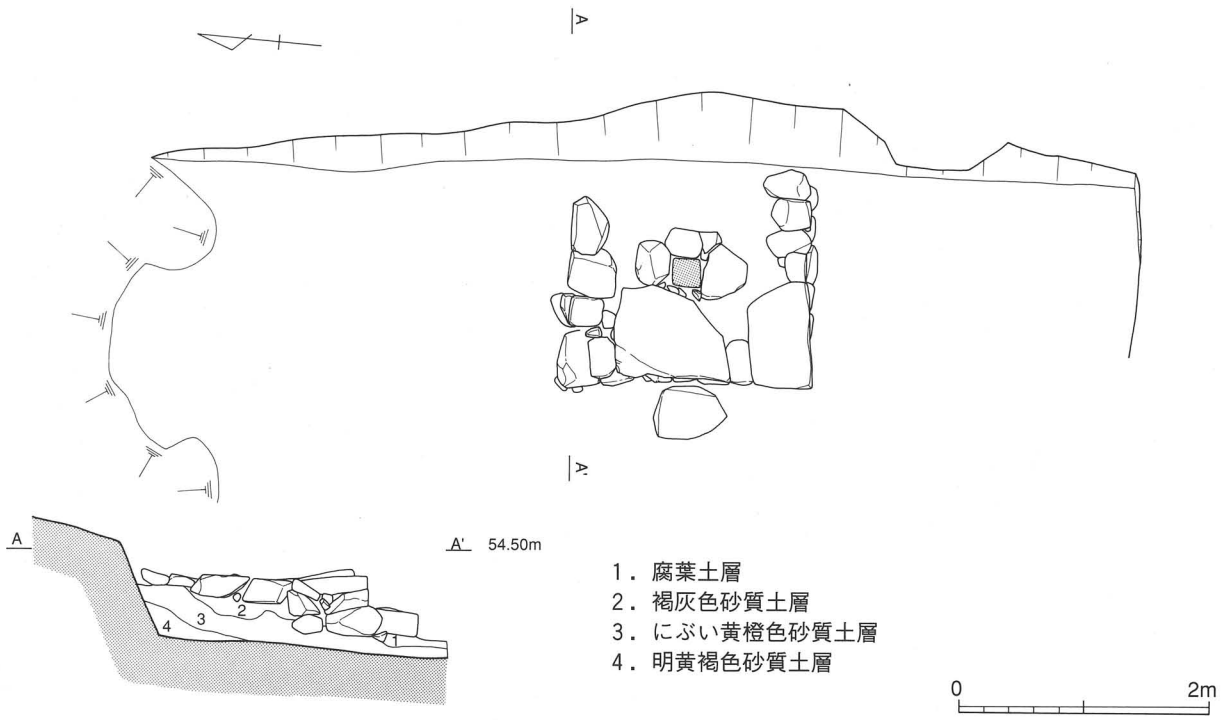
2. 社殿の基壇 (第8図)

加工段の東壁下から検出された社殿の基壇である。意宇川に面した丘陵中腹に位置しており、基壇上面での標高は 54.30 mである。道路からの比高差は約 16 mを測り、大田地区の集落を一望できる場所にある。自然石が「コ」の字状に配置されており、石材を検出した範囲での規模は西辺 2.02 m、南辺 1.7 m、北辺 1.54 mを測る。基壇の中央には「太田山神社跡」と刻まれた標柱が建てられていたため、基壇中央部分の石材は動かされ、一部攪乱を受けた場所もみられた。基壇の西側からは加工段平坦面に置かれた平らな石を検出している。この石は拝礼台として機能していた可能性が高く、^{註16}社殿は西側が正面であったと考えられる。また、西壁の石材はしっかりと積み上げられ、高さ 54 cmを測るのに対し、東側からは石材を検出していない。南辺と北辺の石材は西側が厚く、東側は薄くなっている。土層を観察すると基壇東側(加工段側)の石は第7図の第1層~第3層が堆積した後並べられているのが判る。加工段平坦面より計測すると 42 cmも浮いた位置であり、加工段の掘削と基壇の築造には時期幅があると考えられる。

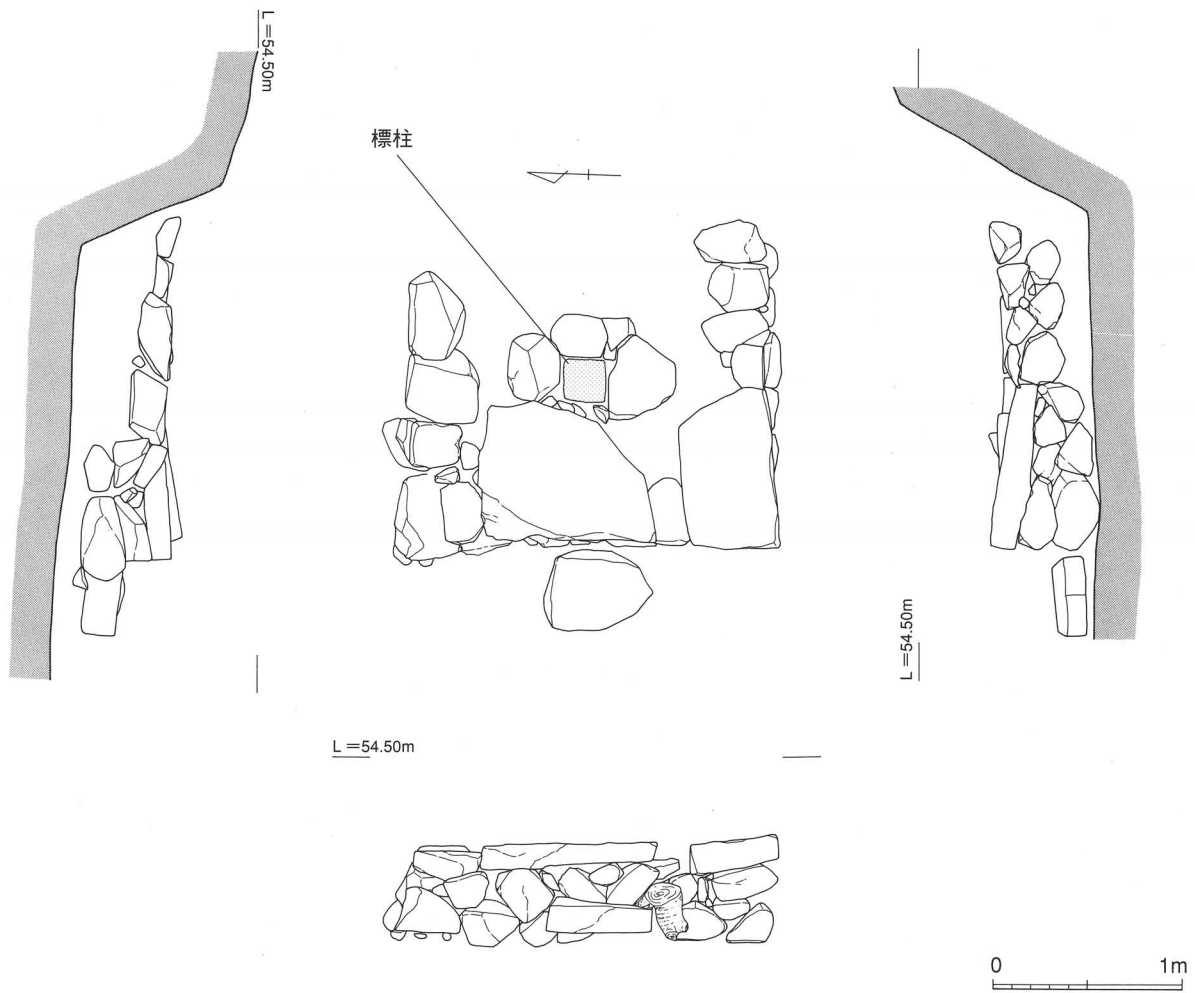
3. よこ穴 (第9図)

調査区の標高 54.25 ~ 55.50 mを測る西向き斜面に地山を穿って開口しており、主軸はほぼ東西方向にあたる。出入り口には直径 12 ~ 16 cmを測るピットが左右対称に掘り込まれており、壁面も円筒状に削り込まれていた。扉を固定するための柱穴と考えられる。閉塞部の前面には床面幅 58 ~ 60 cmを測るテラスが作り出されていた。長さは現状で 74 cmを測るが、もう少し長かった可能性もある。閉塞部の奥はテラスから続く直線的な通路となっている。本来通路部には天井があったと考えられるが、大部分が崩落している。土層を観察すると色調が地山に近く、ブロック状の塊を含んでいる第8層におい黄橙色土層が天井の崩落土と考えられる。通路の規模は床面幅 50 ~ 54 cm、高さ 134 cm、長さ約 142 cmを測る。通路の奥には2方向に室が作り出されていた。南側の室は通路と直交する位置に穿たれており、作りも丁寧である。平面、断面ともに長方形を呈する。一方、北東側に向かって穿たれた室は平面が歪であり、壁面も雑に仕上げられた印象を受ける。この室は後世に作り足された可能性も考えられる。よこ穴床面での標高はテラス側が 54.10 m、奥部が 54.20 mであり、排水のために緩やかな傾斜がついている。

今回検出されたよこ穴はその形態から冬季の芋(主にサツマイモ)の貯蔵庫として掘削された芋穴と考えられる。時期は加工段と切り合っており、新旧関係はよこ穴(新) - 加工段(古)であった。大正10年(1921年)の『熊野大社誌』によると明治41年の神社合祀に際し、跡地は地主に還付されたと記されていることから、このよこ穴は明治41年以降に穿たれたものと考えられる。

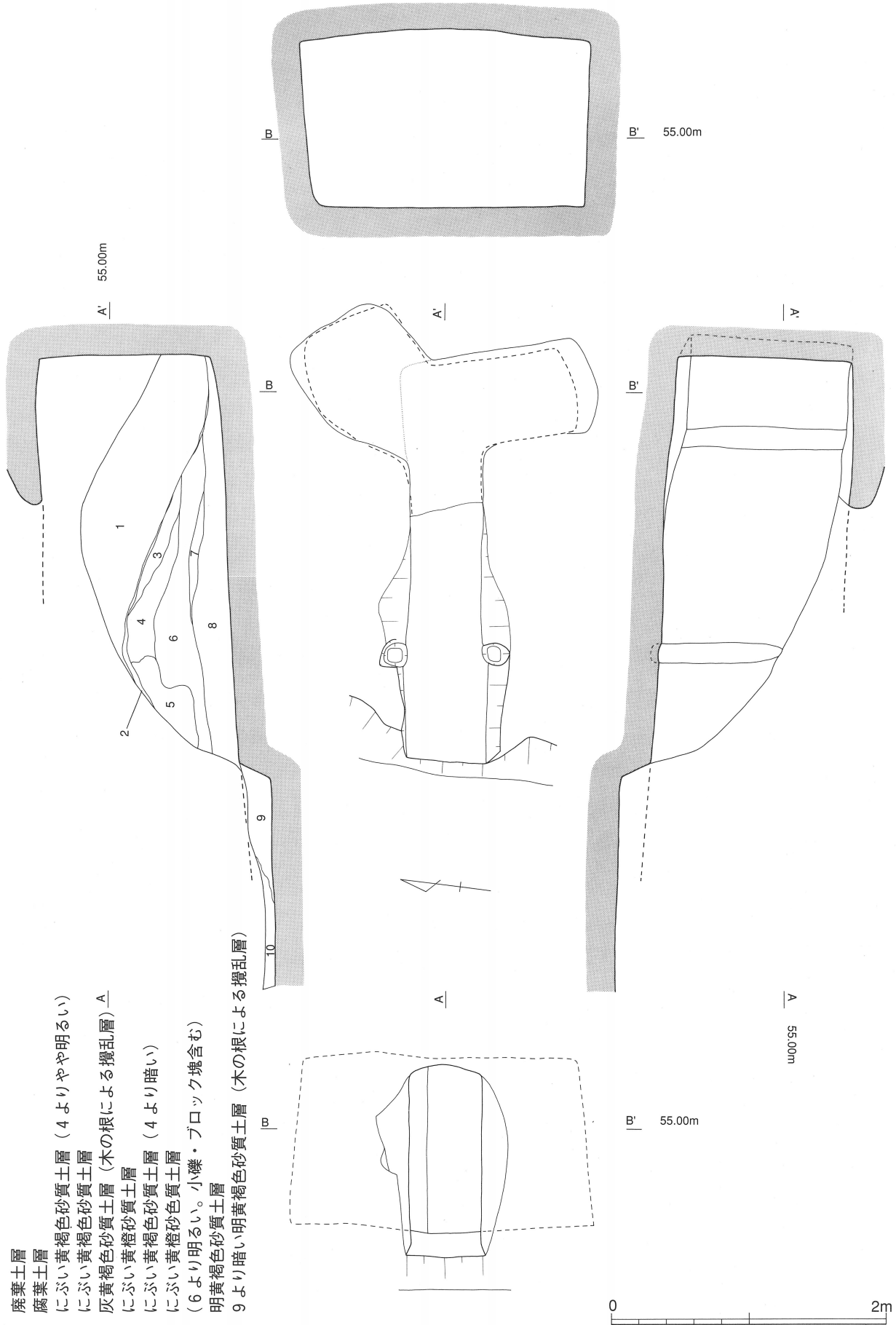


第7図 加工段実測図 (S = 1 / 60)



第8図 社殿の基壇実測図 (S = 1 / 40)

1. 廃棄土層
2. 腐葉土層
3. にぶい黄褐色砂質土層 (4よりやや明るい)
4. にぶい黄褐色砂質土層
5. 灰黄褐色砂質土層 (木の根による攪乱層) A
6. にぶい黄橙砂質土層
7. にぶい黄褐色砂質土層 (4より暗い)
8. にぶい黄橙砂質土層 (4より暗い)
(6より明るい。小礫・ブロック塊含む)
9. 明黄褐色砂質土層
10. 9より暗い明黄褐色砂質土層 (木の根による攪乱層)



第9図 よこ穴実測図 (S=1/40)

第5章 ま と め

調査地である熊野321-1番地は、熊野大社の域外末社である大田山神社が置かれていた場所である。今回の調査により基壇1個と加工段1段、よこ穴1個を検出した。ここでは大田山神社(基壇と加工段)とよこ穴について若干の補足説明を行いまとめとしたい。

【大田山神社】(社殿の基壇と加工段)

大田山神社に係る遺構として社殿の基壇と加工段を検出した。加工段は調査区の標高53.75～55.00mを測る位置で検出されたものであり、平面は「L」字状を呈する。規模は、東壁が長さ7.82m・高さ最大111.5cm、直角に交わる南壁が長さ1.34m・高さ最大36.6cmを測る。基壇はこの東壁に接するように検出された。規模は西辺2.02m、南辺1.7m、北辺1.54mを測るものであり、正方形を意識して配置されていたようである。石材は西辺がしっかりと積み上げられているのに対し、東辺からは石材を検出していない。南辺と北辺の石材は西側が厚く、東側が薄くなっている。土層を観察すると基壇東側(加工段側)の石材は第7図の第1層～第3層が堆積した後に並べられているのが判る。加工段平坦面より計測すると42cmも浮いた位置であり、加工段の掘削と基壇の築造には時期幅が考えられる。その新旧関係は加工段(古)－基壇(新)である。基壇に使われている石材は、大部分が人頭大程度の河原石であるが、基壇上面には長さ91cm・幅74cm・厚さ14cmと長さ84cm・幅49cm・厚さ18cmを測る大きな板状の石が使われていた。

次に、文献を参考に神社の変遷をたどってみたい。大田山神社の登場する最古の文献は、享保12年(1727年)『熊野大社末社荒神指出帳』である。残念ながら原本は紛失しているため由緒や創立年代など詳細は定かではないが、『熊野大社誌』から「一、大田山神社 所祭神麓山祇神」と記されていたことがわかる。このころには社殿が造営され祭祀が行われていたと考えられる。これ以前に編纂された『出雲国風土記』(733年)や『延喜式卷第十』(927年)、『雲陽誌』(1717年)には神社名は登場していないことから、近世になって造営された神社と思われる。棟札の写しが掲載されている『熊野大社并撰末社棟札写』^{註17}によると、寛保2年(1742年)に社殿が再建されている。寛延2年(1749年)と天明6年(1786年)には修繕が加えられ、文化3年(1806年)と文政13年(1830年)、安政4年(1857年)には屋根の葺替えが行われている。『熊野大社誌』によると、明治7年(1874年)に大田山神社は同じ大田地区内にある楯井神社へ合祀されており、時期は定かではないが住民の情願により再び旧社地へ戻されることとなった。明治12年(1879年)11月には社殿の修繕が行われていることから、合祀されていたのは長くても明治12年までのようである。明治8年(1875年)の『明治八年六月改熊野神社并撰末社明細帳』^{註18}には社域の略図が記載され「地名大田、同上末社大田山神ノ社、祭神羽山祇神、本社ヨリ十九丁丑ノ方、社壺尺五寸四方、境内反別八坪」と、地名・距離・方角・社など楯井神社とは別の場所にある神社として紹介されている。これをそのまま素直に解釈すれば合祀されていた期間は1年足らずということになるが、明治8年の『明細帳』にはご神体の無い旧社殿が記載されている可能性も考えられる。^{註19}いずれにせよ、楯井神社に合祀されていた期間はごく僅かだったようである。明治36年(1903年)、今度は湿地にあった楯井神社を大田山神社の神域に奉遷している。この時、同時に社域が壺畝廿一步に拡張され、社殿も修復されている。この後、明治41年に伊邪那美神社神殿へ合祀され、旧社地は地主へ還付された。

以上の経緯から遺構の時期を考えてみたい。今回検出された加工段は現状で長さ7.82mを測るものであり、1間を1.818mで計算すると4.3間となる。検出状況から本来はこれよりも長かったと考えられ、宝暦14年の『指出帳』に記載されている境内敷地(境内敷地五間四方)を示すものと思われる。このように考えると、加工段はそれ以前の創建時か寛保2年の社殿再建時に造成された可能性がある。基壇は加工段よりも新しいことから、大田山神社の再建時、社殿の修繕、屋根の葺替え、楯井神社を合祀した際の社域拡張に伴い築造されたものであろう。

最後に、社殿について触れておく。大田山神社の社殿は明治41年の合祀の祭に処分されており、実物は保管されていない。明治27年(1894年)4月2日付で内務省社寺局に提出された『国幣中社熊野神社並撰末社明細図書及付録外ニ境外撰末社地種取調書』には明治12年に修繕が加えられた後の社殿の図面が記載されている(第10図参照)。これによると、屋根は切妻造であり、大きさは7合2勺、杉羽葺と記録されている。また、千木や鯉木は描かれていない。出入口は妻入り形式となっており、いわゆる「大社造」である。規模は桁行と梁間が2尺4寸、高さ4尺4寸、前面の縁出が7寸を測る。意宇川を挟んだ対岸の山裾には合祀されずに個人の宮として残っている大田御子神社がある。規模も形態も良く似ており、大田山神社の社殿もこうした小宮だったと考えられる。

第2表 神社の変遷一覧表

年 代	文献等の記載内容	検出された遺構	
享保12年(1727年)	文献に初出	加工段はこの時期の境内敷地か (基壇は加工段よりも新しい)	
寛保2年(1742年)	社殿の再建		
寛延2年(1749年)	社殿の修繕		
宝暦14年(1764年)	境内敷地五間四方		
天明6年(1786年)	社殿の修繕		
文化3年(1806年)	屋根の葺替え		
文政13年(1830年)	屋根の葺替え		
安政4年(1857年)	屋根の葺替え		
明治7年(1874年)	楯井神社へ合祀		
	社殿を旧社地へ戻す。		
明治12年(1879年)	社殿の修繕		
明治36年(1903年)	楯井神社を大田山神社の神域に奉遷。 社域が壹畝廿一步に拡張。		(現在の熊野 321-1 番地か)
明治41年(1908年)	伊邪那美神社神殿へ合祀。 旧社地は地主へ還付。		



第10図 大田山神社社殿図



大田御子神社近景写真

【よこ穴】

村内各所の山腹には通称「よこ穴」と呼ばれる穴が数多く散在している。古いものには古墳時代の横穴墓があり、新しいものには坑道、防空壕、水穴、芋穴、保冷穴、酒蔵といったものがある。

水穴とは山間部の民家にみられ、縦井戸の代用として裏山によこ穴を掘ったものである。規格性はないようで、規模や大きさはさまざまである。水脈を求めて掘り進めるため、蛇行しているものや長さが10数メートルに及ぶものもある。

保冷穴とは野菜や果物を冷やして貯蔵する穴であり、現在の冷蔵庫のような役割を果たしている。水が枯れて使われなくなった水穴や、水穴をそのまま利用する場合もあり、今回調査した民家の場合も保冷穴としてわざわざ掘ったものではなく、水が枯れた水穴を利用しているような印象を受けた。

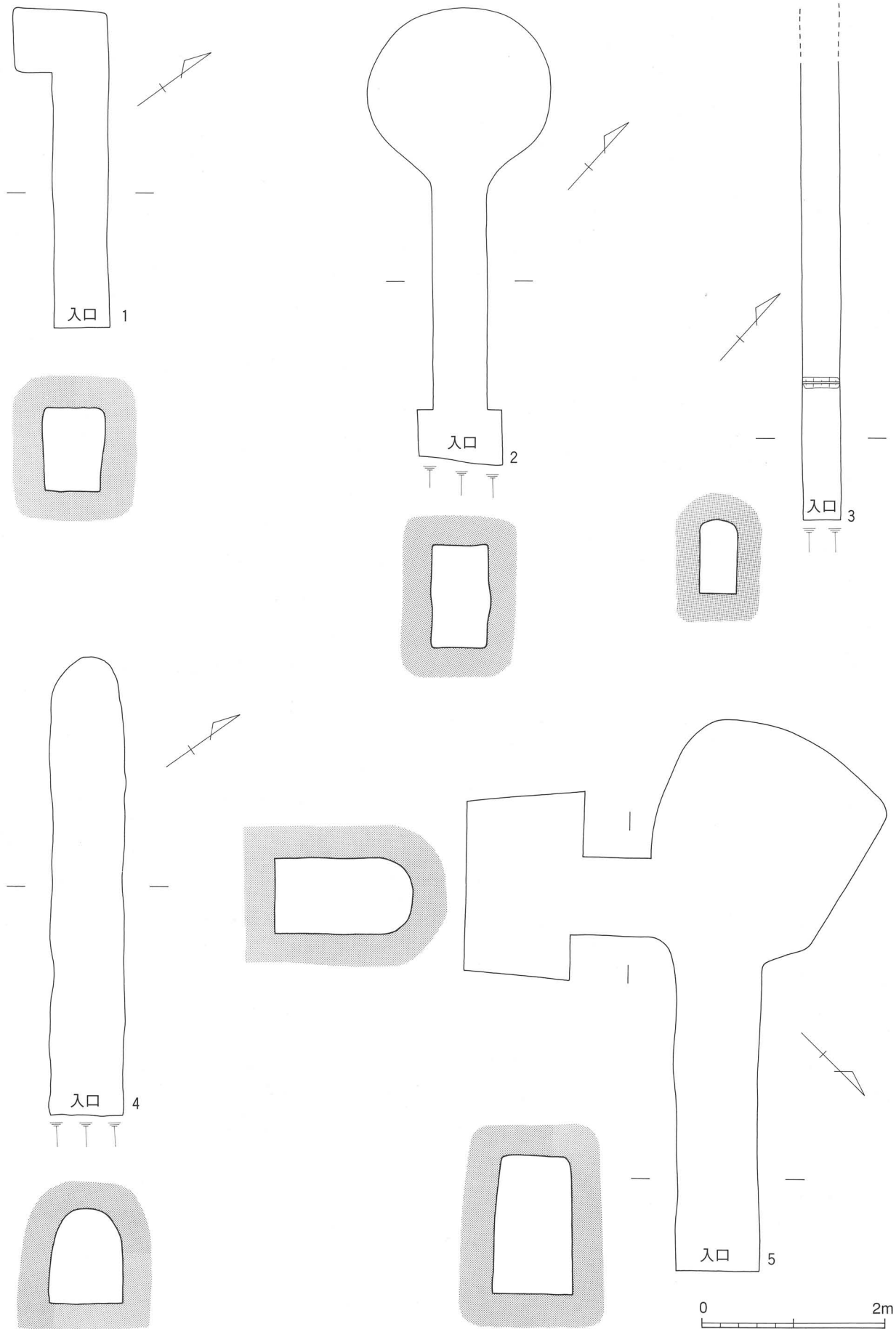
芋穴は冬場の凍結から芋を護るためのものであり、屋内に竪穴を掘る場合と屋外によこ穴を掘る場合がある。屋外によこ穴は芋穴用に掘削する場合と既にある古墳時代の横穴墓や防空壕を再利用する場合がある。芋穴用として掘削する場合には通路の奥に室むろが作られる。室の平面形は方形や円形のものもあるが、単純に通路を直角に折り曲げただけのものもある。規模は個人用に掘られた小さなものや共用の大きなものがある。

酒蔵とは、いわゆる濁酒作りに利用されたものである。屋内で発酵させる場合と屋外によこ穴を利用する場合があった。屋外によこ穴は、防空壕や芋穴など既に掘削されているものが利用されており、住居からずいぶん離れた古墳時代の横穴墓を利用した事例もある。

今回検出されたよこ穴は、通路の奥に室が作られるなど形態的には芋穴に近い。しかし、近年は専ら酒蔵として利用されていたようだ。加工段と切り合っており、新旧関係はよこ穴(新)－加工段(古)である。大正10年の『熊野大社誌』によると明治41年の神社合祀に際し、跡地は地主に還付されたと記されていることから、これ以降に穿たれたものと考えられる。

第3表 八雲村内よこ穴一覧表

挿図番号	よこ穴掘削の目的	伝えられている利用状況	所在地	時期	立地	備考
第11図1	芋穴	芋穴	西岩坂元田地区	不明	母屋から少し離れた墓地の裏山	室は通路の奥を直角に折り曲げた単純なもの。
第11図2	芋穴	芋穴	熊野岩室地区	不明	家の裏山	個人用として掘られたもの。
第11図3	水穴	水穴	熊野岩室地区	少なくとも90年以上前に掘られたもの。	家の裏山	縦井戸の代わりに掘られたもの。ごく最近まで使用されていた。
第11図4	水穴?	保冷穴	熊野須谷地区	昭和の初め頃か。	家の裏山	夏場に冷蔵庫代わりに利用。
第11図5	防空壕	芋穴・保冷穴・酒蔵	熊野大田地区	昭和17年頃に掘削。昭和35年頃まで使用。	家の裏山	共同の防空壕として掘削したもののだが専ら芋穴として使用。濁酒を発酵させたり、夏場は冷蔵庫代わりとしても利用。



第11図 村内よこ穴略測図 (S=1/60)

【註】

- 註1 山本和寛 「第5編・第1章・第1節八雲村の神社」 『八雲村誌』 八雲村
平成10年(1998年)12月〔P1〕
- 註2 財団法人神道大系編纂会『神道大系』神社編36 出雲・石見・隠岐国 昭和58年(1983年)3月〔P2〕
以下、宝暦14年『指出帳』と記す。
- 註3 神庭若宮の所有・管理者である神庭朗氏のご教示による。神庭家は中世有力武士の一族であり、熊野城を
居城としていた熊野氏の家臣と伝えられている。〔P2〕
- 註4 熊野大社 『熊野大社誌』 「神域の巻」 大正10年(1921年)3月では、荒神を地荒神、幸神を道祖神として
いる。〔P2〕
- 註5 藤澤秀晴 「第2編・第3章・第1節近世各村の村高と戸口」 『八雲村誌』 八雲村
平成10年(1998年)12月〔P3〕
- 註6 熊野大社・熊野大社氏子会『くまぐましいクニ ー写真は語りかけるー』 平成6年(1994年)10月の記載
による。『八雲村誌』や『熊野百年史年表』では、上之宮伊邪那美神社で諸社が合祀された後、下之宮へ
移転されたことになっている。〔P3〕
- 註7 熊野大社所蔵資料。編纂された年代は定かではないが、「国幣大社」とあり、大正5年(1916年)以降に
書かれたものである。〔P3〕
- 註8 『八雲村誌』や『熊野大社誌』では、伊邪那美神社に合祀された宮はこれに熊野御崎神社(前神社)を加え
て20の社となっている。現在、熊野御崎神社は稲田神社内に配祀されている。〔P3〕
- 註9 一覧表の神社名は『国幣大社熊野神社明細帳』(註7の資料)の名称を基とし、明細帳に記載のないもの
については宝暦14年『指出帳』や『くまぐましいクニ』に記載されている神社名を使用した。〔P5・6〕
- 註10 神社所在地の熊野大社資料については、以下の文献を参考にした。〔P5・6〕
・熊野高裕「熊野大社史の基礎的研究」 『古代文化研究』第9号 鳥根県古代文化センター 平成13年
(2001年)3月
・熊野大社・熊野大社氏子会『くまぐましいクニ ー写真は語りかけるー』 平成6年(1994年)10月
- 註11 享保12年『熊野大社末社荒神指出帳』。原本は紛失しているため、『熊野大社誌』 「神域の巻」の記載を
基に作成。〔P5・6〕
- 註12 合祀先の神社については、以下の文献を参考にした。〔P5・6〕
・熊野大社『国幣大社熊野神社明細帳』(註7の資料)
・熊野大社『熊野大社誌』 「神域の巻」 大正10年(1921年)3月
・奥原福市『八東郡誌』本編大正15年編纂・昭和48年3月復刻
・山本和寛「第5編・第1章・第1節八雲村の神社」 『八雲村誌』 八雲村 平成10年(1998年)12月
- 註13 『意宇郡熊野村地引図図面』(熊野村字切図) 出雲国第十二図 明治9年(1876年)
長沢報徳会所蔵〔P5・6〕
- 註14 『熊野大社誌』に記載されている資料である。『古社記』の詳細は不明であるが、熊野大社誌の記載順か
らすると『出雲国式社考』千家俊信著天保14年(1843年)と『国幣中社熊野神社並撰末社明細図書及付録』
熊野大社 明治27年(1894年)の間に書かれた資料のようである。〔P5・6〕
- 註15 昭和61年に天皇陛下御在位60周年事業の一環として熊野大社により建てられたもの。〔P9〕
- 註16 熊野大社の熊野高裕氏のご教示による。この他、供物をお供えする台や賽銭箱置きといった機能も考えられる。
〔P11〕
- 註17 『熊野大社並撰末社棟札写』熊野大社 明治42年(1909年)9月調製〔P14〕
- 註18 熊野大社『明治八年六月改熊野神社並撰末社明細帳』 明治8年(1875年)6月〔P14〕
- 註19 熊野大社の熊野高裕氏のご教示による。〔P14〕

[参考文献]

- ・藤岡大拙 「第2編・第2章・第4節熊野氏と熊野城」 『八雲村誌』 八雲村 平成10年12月
- ・加藤義成 『出雲国風土記参究』 昭和32年10月
- ・奥原福市 『八束郡誌』 本編 大正15年編纂・昭和48年3月復刻
- ・志賀剛 『式内社の研究』 第4巻山陰道編 昭和56年7月
- ・島根県古代文化センター調査研究報告書15 『出雲国風土記註論』 ～総記・意宇郡条～ 島根県古代文化センター 2003年3月
- ・『熊野百年史年表』 八雲村文化財保護協会 昭和48年10月
- ・『熊野大社本社並撰末社々殿絵図』 熊野大社蔵
- ・熊野高裕 「出雲国風土記所載楯井社考」 『出雲古代史研究』 9号 出雲古代史研究会 1999年
- ・須谷地区自治会 『じげあげこげ』 須谷地区地域防災対策総合治山事業完工記念誌 平成15年(2003年)8月
- ・黒沢長尚 『雲陽誌』 昭和51年5月
- ・熊野高裕 「熊野大社史の基礎的研究－速玉神社鎮座地論－」 『古代文化研究』 9号 島根県古代文化センター 2001年3月

圖 版



大田山神社繪圖『熊野大社本社並摂末社々殿繪圖』より

所有者：熊野大社

撮 影：島根県古代文化センター



発掘調査前の大田山神社跡近景（北西より）



発掘調査前の大田山神社跡遠景（南西より）



発掘調査後全景（南東より）

図版 4



社殿の基壇及び加工段検出状況（南東より）



加工段全景（北より）



加工段土層堆積状況（北より）



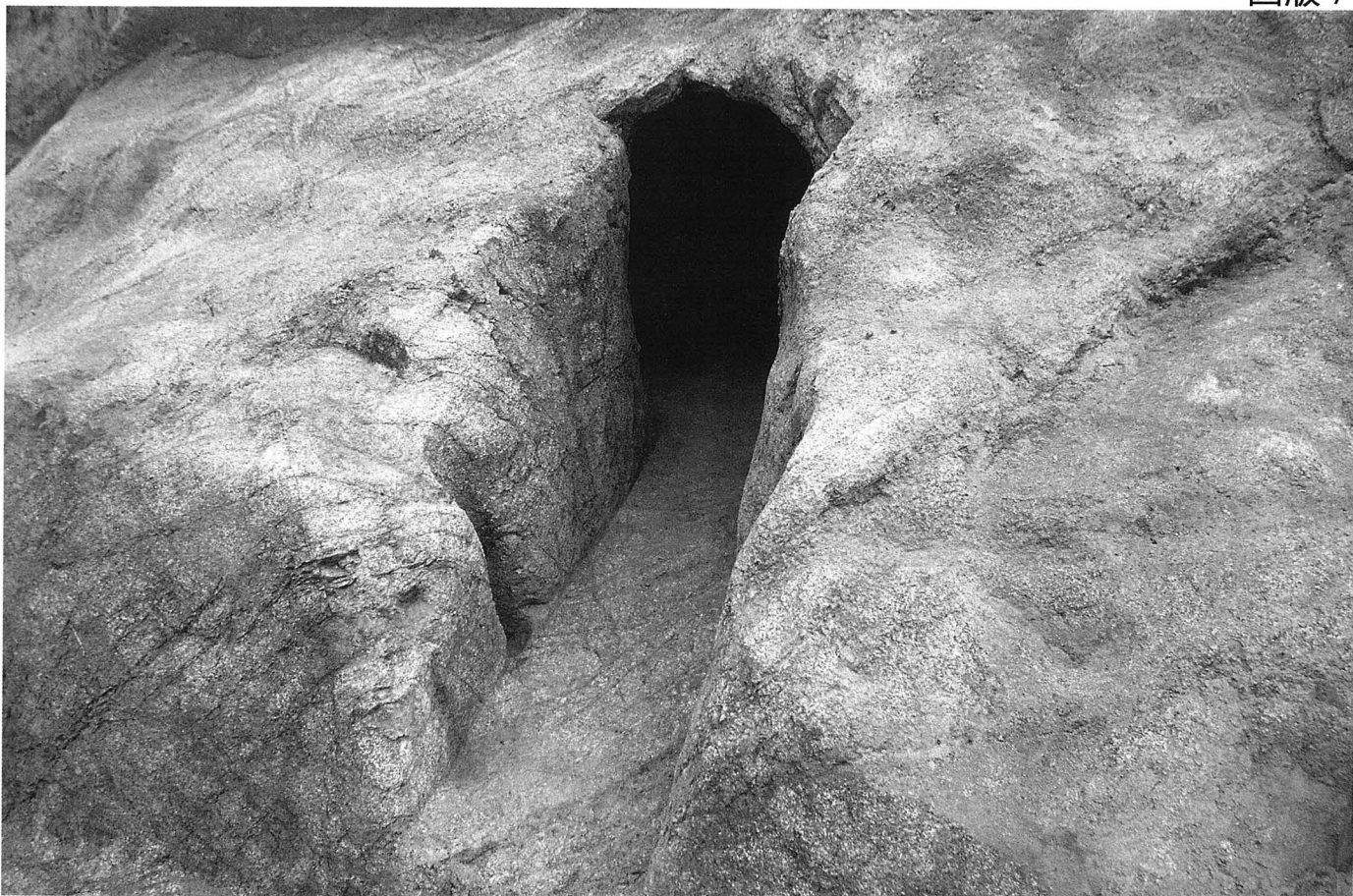
社殿の基壇全景（南東より）



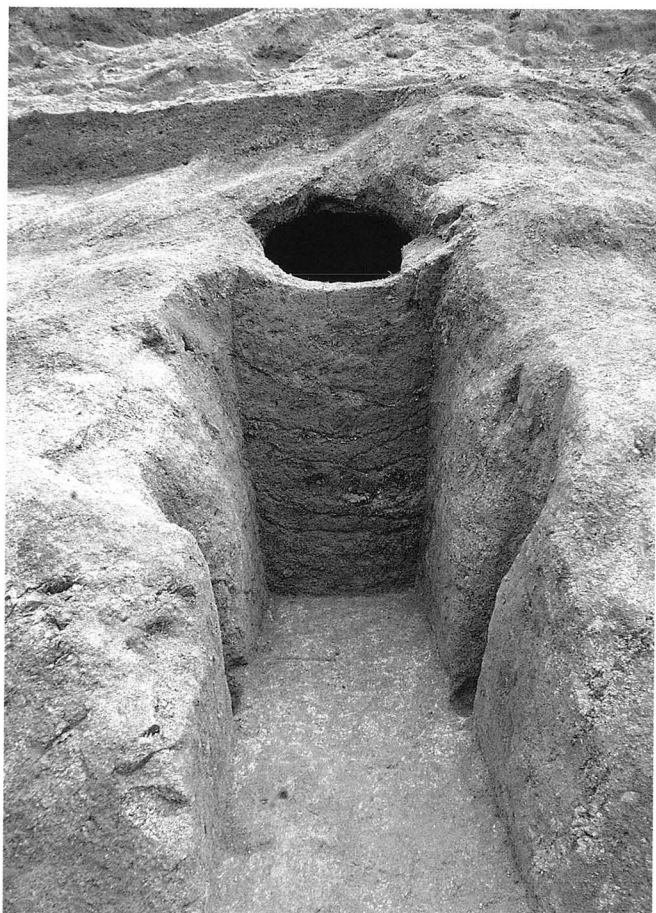
基壇南側の石組み（南より）



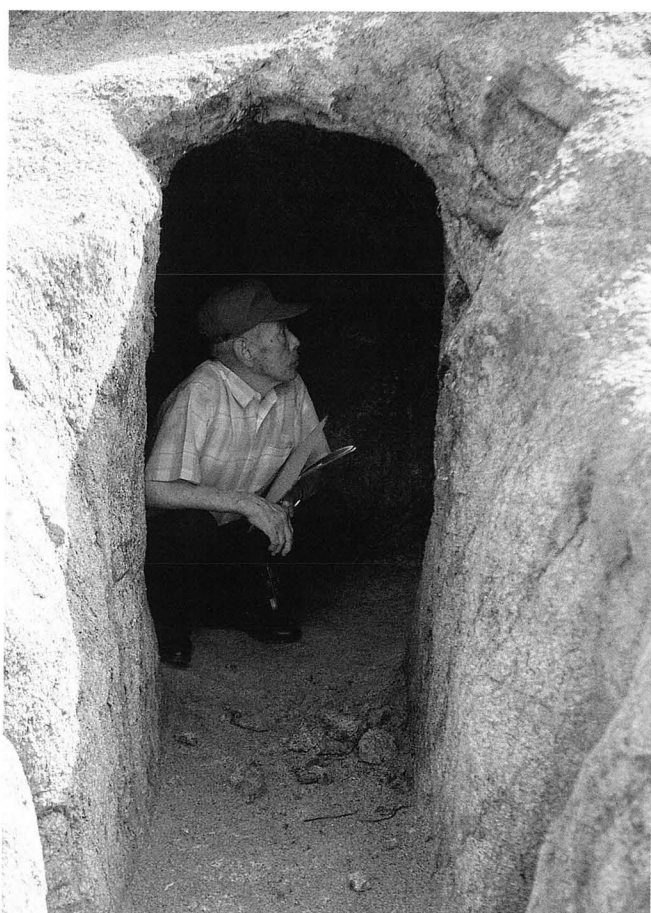
基壇西側の拝礼台検出状況（北西より）



よこ穴全景（西南西より）



よこ穴土層堆積状況（西より）



調査指導風景



大田山神社跡より大田集落を望む
(北東より)



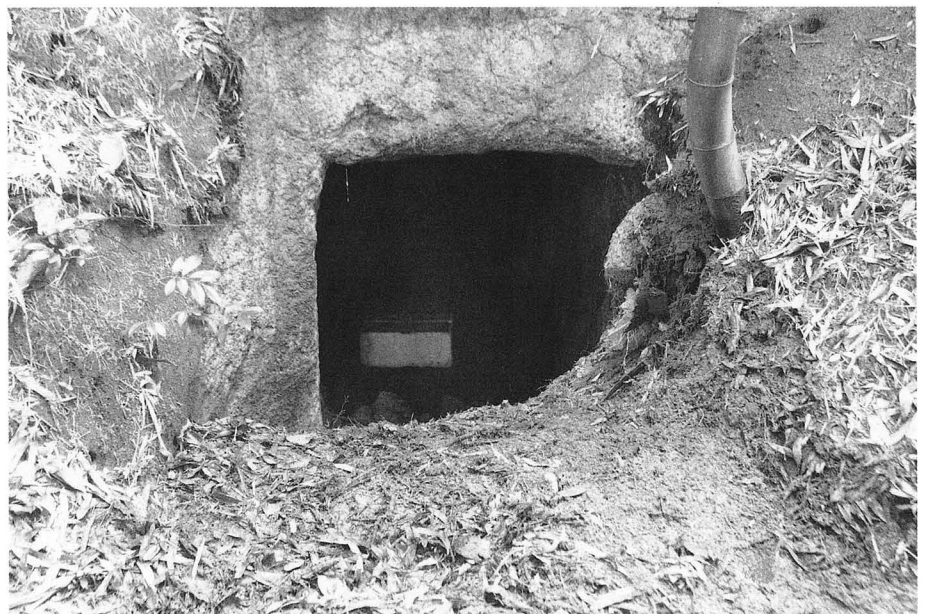
発掘作業風景



発掘調査参加者



第11図1、元田地区の
芋穴近景（南東より）



第11図5、大田地区の
防空壕近景（北東より）



古墳時代の横穴墓を利用
した芋穴近景

報 告 書 抄 録

ふりがな	おおたやまじんじゃあと						
書名	大田山神社跡						
副書名	主要地方道大東・東出雲線熊野工区交B（交通安全）工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次	八雲村文化財調査報告 23						
編集者名	川上 昭一						
編集機関	八雲村教育委員会						
所在地	〒690-2192 島根県八東郡八雲村大字西岩坂 316 番地 TEL (0852) 54-2478						
発行年月日	平成 17 (2005) 年 3 月						
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)
		市町村	遺跡				
大田山神社跡	島根県 八東郡 八雲村 大字熊野	32305	F119	35度23分 21秒	133度4分 52秒	平成15年 8月6日～ 9月2日	58.5
調査原因	大東東出雲線熊野工区交B（交通安全）工事						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
大田山神社跡	神社跡	近世	加工段・社殿基壇	無し			

大田山神社跡

平成 17 (2005) 年 3 月

発行 八雲村教育委員会
島根県八束郡八雲村大字西岩坂316番地

印刷 株式会社 島根県農協印刷
島根県松江市浜乃木二丁目10番52号